



大雪山の自然に魅入られ「半農半山ガイドで暮らしたい」とは言うものの、近年はやりの「山ガール」ブームのはしりを地で行って、北米、アフリカにまで飛び出したバイタリティーの持ち主。「ケニアの観光ツアー企画を」という要望も来ているそうです。大雪山の山ガイドだけにとどまらず、かつて暮らしたカナダ・キャンモア、ケニアともつながって、世界をグローバルに飛び回る活躍をする日も遠くないようです。



「結び方を間違えると効き方が半分になるので注意してください」。

厳寒の雪中実技訓練で厳しい指導の声が飛びます。受講生はいずれ劣らぬ山のベテランばかり。

雪崩講習会ロープワーク講師を務めたカミフ会の冬山山岳事故防止講習会。参加24人のうち、上級者6人を対象としたロープワーク講習です。瞬時の確かな判断、ロープワーク作業が遭難者、救助者双方の命と直結します。ムンターヒッチ、プルージック、シートベント、八の字結び…。登山に必要な基本的ロープワークとはいっても多種多様。遭難現場では、救助対象者のそばまで一人で下りて傷病者を引き上げる必要も想定されます。自分自身と傷病者を支えるための簡易ハーネス、アンカー作りなども欠かせません。



「発展途上国の支援をするための勉強をしたい」と国際開発の専門知識を学ぶためにカナダ留学。カルガリー大学がロッキー山脈近くだった好立地で登山を始め、山の魅力に魅せられてしまいました。

キャンモア町で登山学校に入校。

野外救急法(80時間)も学び、昨年カナダの雪崩レスキュー資格を取得しました。

大学卒業後に帰国して旭岳パークレンジャー(当時)として自然保護監視員活動をしながらいICA青年海外協力隊員としての活動チャンス待ち、ケニアで2年間環境教育活動。帰国後旭岳を拠点に登山ガイド活動を再開しました。

「カナダで山登りしていた時に山の雄大さ、静けさから離れられなくなったんです。大雪山も静けさでは同じような雰囲気を持っていて、高山植物もきれい。3年間パークレンジャーをしていた経験で山への愛着が湧いていたし、当時フィールドで山を案内していた気持ちよかったから」。

帰国して変わっていたのは「山ガール」の流行。「女性の登山ガイドなら、女性ならではの、のびのびもある。今シーズンからはガイドサポートしながら旭岳を中心に活動したいな」。

忙しい時には旭岳温泉、白樺荘で接客も手伝い(昨年12月3日)



冬山遭難防止と救助対策の訓練「上富良野冬期山岳講習」(1月14、15日、上富良野町吹上温泉保養センター「白銀荘」)



青木さんの担当は冬山遭難救助で欠かせないロープワークの講師

あおき みちこ 青木 倫子さん/東川町 札幌市出身、34歳。札幌北星学園女子短期大学卒、カナダ・カルガリー大学卒。帰国後の2003(平成15)年、草創期2年目の東川町大雪山自然学校の自然保護監視解説員として東川町で活動開始。2008(同20)年から(独)国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊員としてケニア野生生物会社に派遣され、アバーデア国立公園で2年間活動(環境教育)。帰国後は道内の山岳ガイドサポートをしながらいフリーガイドとして独立準備中。上富良野冬期山岳事故防止委員会(カミフ会、角波光一会長)の第6回上富良野冬期山岳講習会(1月14、15日、上富良野町吹上温泉で実施)でロープワーク講師。